

第3 問題作成部会の見解

1 出題教科・科目の問題作成の方針（再掲）

- 歴史に関わる事象を多面的・多角的に考察，構想する過程を重視する。

用語などを含めた個別の事実等に関する知識のみならず，歴史に関わる事象の意味や意義，特色や相互の関連等について，歴史的な見方・考え方を働かせながら，概念などを活用して多面的・多角的に考察したり，課題の解決を視野に入れて構想したりする力を求める。『歴史総合，日本史探究』及び『歴史総合，世界史探究』では，「歴史総合」で学習したことから，それを基に「日本史探究」又は「世界史探究」で学習したことを問う。

問題の作成に当たっては，事象に関する深い理解を伴った知識を活用して，例えば，教科書等で扱われていない資料であっても，そこから得られる情報と授業で学んだ知識を関連付ける問題や，仮説を立てて資料に基づき根拠を示したり検証したりする問題，時代や地域を超えて特定のテーマについて考察する問題などを含めて検討する。

2 各問題の出題意図と解答結果

第1問

疫病や飢饉，環境汚染，地震をめぐる「災害の歴史」をテーマとし，Aは災害とその要因や開発との関係について，Bは災害への対応や災害後の社会について，それぞれ考察し解答させる問題である。

Aでは，ヨーロッパ，南アメリカ，アフリカにおけるマラリア流行をめぐる人とモノの流れを示すパネルや表，インド及びアフリカにおける飢饉の状況についての地図やグラフ，チョルノービリ（チェルノブイリ）原子力発電所事故に関する地図を生徒が作成する場面を取り上げた。問1では，パネルについて正しいものの組合せを選択する問題で，歴史的な事象相互のつながりに着目し，その関連を考察する力を問うた。問2では，表中の空欄に入る語句と文とについて，正しい組合せを選択する問題で，思考力・判断力・表現力等を問うた。問3では，資料から情報を読み取り，まとめる力及び，歴史的な事象相互のつながりに着目し，その関連を考察する力を問うた。問4では，適切に情報を読み取り，さらに読み取った情報を目的に応じてまとめる力を問うた。問3(1)は正答率がやや低かったものの，いずれの小問も識別力は妥当であった。

Bでは，近代日本の水害と森林保全についてのレポート，関東大震災時の諸外国からの復興支援についてのグラフ，被災地における歴史資料の保全活動の動向についての表を生徒が作成し，探究活動を発展させる場面を取り上げた。問5では，資料から情報を読み取り，まとめる力及び，歴史的な事象相互のつながりに着目し，その関連を考察する力を問うた。問6では，資料から情報を読み取り，まとめる力及び，歴史的な事象相互のつながりに着目し，その関連を考察する力を問うた。問7では，資料から情報を読み取り，まとめる力及び，歴史的な事象の時系列・推移に着目して，その性質や役割等の変容を考察する力を問うた。いずれの小問も，正答率・識別力は妥当であった。

第2問

「近現代における都市の変容」をテーマとし，Aはパリと東京を事例に，図像資料や数量データを読み解く問題，Bはアジアの植民地都市を題材としながら，都市を通じた近代化の意味や影響を考察し解答させる問題である。

Aでは、近現代における大都市の変容について、生徒が図像資料や数量データから読み取れる情報を基に、ノートやパネル、グラフを作成する場面を取り上げ、歴史総合で学んだ知識を用いてそれらを考察する力を問うた。問1では、三種類の図表を読み取り、近代化が都市の変容にもたらす影響を適切に判断できるかを問うた。問2では、近代における対外関係の基本的な知識を基に時系列的に適切に理解できているかを問うた。問3では、江戸・東京における都市構造の変化について、生徒がまとめたパネルを使いながら、内容的な理解ができているかを問うた。問4では、戦後における公定歩合と東京都の新規住宅着工戸数に関するグラフを読み取る技能を問ひ、その背景となる内容的理解を問うた。問2は正答率がやや低かったものの、いずれの小問についても識別力は妥当であった。

Bでは、20世紀初頭におけるアジアの植民地都市の様相の多様性について、地図やメモ、各植民地における人口や言語に関するグラフなどの素材を通して考察する力を問うた。問5では、東南アジアにおける植民地化と、それぞれの宗主国の組み合わせ及びその具体的内容を問うた。問6では、地図から得た情報を踏まえ、植民地統治の実態や歴史的な流れを問うた。問7はノートを読み取る中で、既習事項と組み合わせて、戦後香港の軽工業中心の工業化が、国際情勢に起因することに気付けるかを問うた。問8は、会話文などの情報と、円グラフの読み取りを組み合わせて、統計的な情報と記述的な情報を整理して理解できるかどうかを問うた。いずれの小問も、正答率・識別力は妥当であった。

3 自己評価及び出題に対する反響・意見等についての見解

第1問

Aについては、歴史的な知識を基に、パネル・表・レポートを読み解く小問から構成されている。問1は歴史の知識を活用し、大西洋三角貿易やアフリカ分割などに関する概念的な理解を問う良問と評価された。難易度に注意を払いつつ、今後もこうした概念的な理解を問う出題を積極的に行うべきと考える。問2はマラリア撲滅研究の背景には勢力圏や植民地を維持する目的もあったという帝国主義に関する概念的な理解を問う良問と評価された。歴史的知識を基に資料の読み解きを要する問題であり、複数の知識・技能を問う出題を今後も検討していきたい。問3(1)はガンディーの非暴力・不服従運動及びイタリヤによるエチオピア侵攻の時期を正確に理解していれば、正答を得ることができると評価された。(2)は(1)の内容を踏まえて資料を読み取る問題であるが、資料から考えうる「問い」やそれを補強するための資料を選択させる出題も考えられるとの指摘がなされた。この指摘を踏まえ、今後の問題作成に当たっては、より多様な観点から資料を利用することを試みていきたい。問4については、地図の使い方に工夫がみられるという評価がなされた一方で、チョルノービリ（チェルノブイリ）原子力発電所事故とソ連解体との前後関係をレポート中の「1986年」という年代から読み取らせることは、安易な年代暗記の助長が危惧されると指摘された。特に今後の課題として、年代の暗記のみで解答が可能になるような出題を避ける必要がある。

Bについては、歴史的な知識を基に、レポート・グラフ・表を読み解く小問から構成されている。いずれも知識・技能を問う問題であるが、問5については歴史用語や年代を用いずに問うよう選択肢が工夫されている点、問6についてはグラフの丁寧な読み取りを求めた点、問7については「現代の私たち」とのつながりを意識する内容であった点が、それぞれ評価された。今後も、事実に基づく知識にとどまらず、内容的理解や概念的な理解、思考力を問うことができる出題形式に取り組んでいきたい。他方で、問6は、グラフの読み取りやグラフと史実との関連付けについて、より深い思考力を問う余地が残されているという趣旨の指摘を受けた。今後も思考

力を問う問題づくりを心掛けたい。また、第1問全体を通して生徒が様々な活動・考察ののち、問7で現代的な諸課題にひきつけた問題を設定したことで、受験者が被災地での歴史資料の保全活動における政府・民間団体の活動の重要性を受け取ったのではないだろうかとの評価をいただいた。現代的課題にひきつけたメッセージを大切にしつつ、バランスの取れた問題構成に努めたい。

第2問

Aについては、メモやパネル、折れ線グラフを読み解って解答する小問から構成されている。問1は、近代パリにおける都市改造に伴い、社会階層による垂直的な住み分けが地域的な住み分けへと移行したことについての理解を、住宅の図や分布図などの資料と関連付けて考察させる、概念的理解を問う良問という評価を得た。今後も、歴史的な事実を基盤としながら、歴史総合らしい、概念的な理解や思考力を問う出題を続けていきたい。問2は、資料内に登場する歴史的人物を特定した上で、近代フランスの対外政策に関する正しい組合せを選択する、知識・技能を問う問題と評価された。大問のテーマである「近現代における都市の変容」との関連がやや分かりにくく、歴史総合の学習内容としてはやや細かい知識ではないかとの指摘もあった。より適切な選択肢を設定するために、今後の参考にしたい。問3は、文献資料から都市構造の変化を読み取らせようとする意欲的な出題という評価を受けた。今後は、図版資料を用いることも検討したい。問4は、「列島改造」が歴史総合の教科書では扱われていない用語だという意見を受けた。今後も歴史的な用語の活用については、概念的な知識としての歴史事象とすることも含め、検討していきたい。

Bについては、地図やメモ、円グラフを読み取って解答する小問から構成されている。問5は、植民地時代の東南アジア諸地域に関する基本的な知識を問う問題と評価された。しかし、図表等の読み取りを求める問題の作成もできたのではとの指摘もあった。多様な問題作成のために今後の参考としたい。問6は、地図を丁寧に読み取った上で、植民地統治に関する概念的な理解に結び付ける力を問う良問であるとの評価を受けた。問7は、ノート全体を読んだ上で「労働力の流入」という視点から抽象化し、概念的な理解を求める良問と評価された。今後も、事実に基づく知識だけでなく、思考力・判断力・表現力等を問うことができる出題形式に取り組んでいきたい。問8は、中間全体のまとめとして、これまでの小問で取り上げられた文字情報を統計資料として提示し、それを丁寧に読み取り考察させる良問との評価を得た。引き続き、中間や大問のまとめとして適切な出題形式に取り組んでいきたい。

4 まとめ

以上、問題作成部会として、各問の出題意図と、設問に対して寄せられた意見・評価に対する見解を述べてきた。最後に総合的な意見・評価についての問題作成部会の見解を述べ、問題作成に当たっての留意点についてまとめておきたい。

問いの対象となる資料については、文字資料、地図、グラフ、図像資料など多様な歴史資料を提示することに努めた。これは、資料やデータ等を基に考察することを重視したためである。

また、大問単位に授業を想定した大きなテーマを設定し、中間単位に授業中のやりとりを取り入れ探究的な活動を行うなど、歴史総合の学びの場面設定を踏まえた出題とした。

単純な事実に基づく知識ばかりではなく、その歴史的な事象の内容や因果関係など内容の理解を前提とした包括的理解を問う問題、さらには歴史的な事象が持つ意味や意義などの概念的な理解を問う問題の出題を意識した。

総じて、日本史／世界史に区分できるものではない歴史総合の科目の特性が伝わるように心掛け、

知識・技能を問う問題と概念的理解や思考力・判断力・表現力等を問う問題のバランスをとり、両者の融合を図る点にも配慮した。歴史総合固有の知識とは何かについて悩む多くの高校の教員に対し、明確な方向性を与えているという評価を受けたことも踏まえ、今後もこのような方向性を維持して作題に努めたい。